

全国訪問教育研究会

第25回全国大会（愛知）開催要項

■大会実行委員長あいさつ■



私は現在、主に青年期における発達障害児の学びを通しての人的成長に関する実践・運動・研究に取り組んでいます。昨年の12月10～11日、私の勤務校を会場に360名の参加を得て「第9回全国LD実践研究集会」と「第8回全国専攻科（特別ニーズ教育）研究集会」の合同研究集会を開催しました。後者の全国専攻科研究集会は後期中等教育年限の延長を図りその後の生涯学習や大学教育を視野にいれ、“第三の学びの扉”を拓こうと取り組んでいます。ここには、もちろん訪問教育を受けている障がいの重い人たちも含まれます。

私と訪問教育との出会いは、40年前に遡ります。1972年3月に結成された「愛知県障害児の不就学をなくす会」の県民運動によって、愛知県では養護学校義務制実施に先立ち、1974年度から障害児の「全員就学」が始まりました。しかし、これまで学校や施設から閉め出され在宅等に放置されていた不就学児1,100名のほとんどは「全員就学」の名の下に「訪問指導」をあてがわれたのでした。私たちは、正規の教員による全日教育と子ども集団の保障が基本であることを確認するとともに、スクールバスなど通学保障がないなかで余儀なく家庭訪問指導に回されている実態を明らかにしました。このことは国会でも取り上げられ、スクールバスの配車や経路が改善されました。

そして今日、愛知では、希望すれば「病院訪問教育」が受けられるようになってきました。全国では未だこのような例は少なく、愛知の訪問教育が誇れる特徴の一つだと思います。

さて、全国から全訪研第25回全国大会愛知大会にお集まりのみなさん、3日間にわたり、これからの障害者権利条約時代における障害児の権利保障の徹底をめざす実践・研究・運動について、名古屋の名物“ホット”な夏に負けない熱い論議を期待しています。

全国訪問教育研究会第25回全国大会実行委員長

田中 良三（愛知県立大学教育福祉学部教授・生涯発達研究所長）

■大会テーマ■

「地域に根ざした訪問教育を進めよう～すべての子どもたちに豊かな教育を」

■開催日時■

2012年8月7日（火）～9日（木） 開場12時00分（開会13時00分）

■会場■

名古屋国際会議場

〒456-0036 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-1 TEL:052-683-7711

■主催■

全国訪問教育研究会

■後援■（申請中を含む）

文部科学省・厚生労働省

全国特別支援教育推進連盟・全国特別支援学校肢体不自由教育校長会

全国特別支援学校知的障害教育校長会・全国特別支援学校病弱教育校長会

社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会・全国訪問教育親の会・全国病弱教育研究会

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会・認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・愛知県特別支援学校校長会

朝日新聞社・中日新聞社

■大会日程■

1日目（8/7）		2日目（8/8）		3日目（8/9）	
12:00	開場・受付開始	9:00	（分科会打ち合わせ）	9:30	ワークショップ （～11:00）
13:00	開会行事・基調報告	9:30	分科会		
14:00	開催地からの報告	12:00	昼食	11:15	全体会
15:25	大会記念講演	13:00	分科会		・閉会行事
16:40	記念講演終了		親の会懇談会	11:45	大会終了
17:00	全訪研総会（～17:30）	16:30	分科会終了		
17:50	分科会打ち合わせ （司会・共同研究者・ レポーター）～18:30	16:45	休憩		
		18:00	共同研究者・役員懇談 夕食交流会（～20:00）		

※2日目（8月8日）の午後に、親の会懇談会を行います。（場所は、同じ会場内です。）

■内容■

（1）開催地からの報告（8/7 14:00～15:10）

今年の開催地からの報告は2部構成です。

<第1部：人形劇団「紙風船」の公演とお話>

重度の障がいのあるメンバーが中心となって1996年に結成された人形劇団「紙風船」。「障がいがあっても地域で豊かに生きがいを持って暮らしたい」と職業自立を目指す仲間たちが、人形劇の公演を行います。公演の前には「紙風船」を創設した南寿樹（愛知県立大府養護学校）が、「紙風船」の取り組みと、その意義について話します。

<第2部：愛知の訪問教育－病院訪問教育の現場から>

愛知の訪問教育のなかで全国に発信できる特色のひとつは、病気で入院している子どもを対象とした病院訪問教育が充実していることです。愛知における病院訪問教育の歴史と現状、課題について報告します。

（2）大会記念講演（8/7 15:25～16:40）

演題：「医療的ケアが必要な子どもたちを皆で連携して支えよう」

講師：三浦清邦（名古屋大学大学院医学系研究科 障害児（者）医療学寄附講座教授）
（講演要旨）

医療的ケアが必要な子どもたちとその家族が豊かに地域で生活していくためには、医療と教育と福祉と行政と親御さんたちが皆で支えていく必要があります。平成24年4月から介護職等の医療的ケアが法制化され、ますます医療と他分野の連携が必要となってきます。また、医療といっても小児科医師だけで支えられないことは言うまでもなく、医療と歯科医療との連携、小児科と内科との連携、障害児者系と高齢者系・在宅医療系との連携などが各地域で摸索され始めています。医療的ケアをめぐる、地域との関係者と歩んできた10年を振り返り、理想の連携の形を考えてみたいと思います。

（講師紹介）

1984年、名古屋大学医学部卒業。1991年、名古屋大学医学部小児科大学院修了。1991年4月から愛知県心身障害者コロニー中央病院小児神経科。2007年4月から豊田市こども発達センターのぞみ診療所副所長・小児神経科。2011年4月から豊田市こども発達センター副センター長。2011年11月から名古屋大学医学部医学系研究科障害児（者）医療学寄附講座教授。2003年度より愛知県教育委員会「養護学校における医療的ケア実践研究運営協議会」委員、2005年度より愛知県教育委員会「養護学校における医療的ケア連絡協議会」委員を歴任。2006年6月から日本小児神経学会評議員・社会活動委員会委員。日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医、日本てんかん学会認定医（臨床専門医）。

著書（いずれも共著）は、「新版医療的ケア研修テキスト」日本小児神経学会編（クリエイツかもがわ）、「『医療的ケア』はじめの一步」（クリエイツかもがわ）、「発達障害児の医療・療育・教育改訂2版」（金芳堂）、「発達障害医学の進歩No.20」（診断と治療社）など多数。



(3) 全訪研総会 (8/7 17:00~17:30)

全訪研の昨年度の活動、今後の活動方針等について総会を行います。

- ①活動報告（2011年8月～2012年7月の全訪研の活動内容）
 ②2011年度決算報告、会計監査 ③2012年度予算 ④活動方針
 ⑤規約 ⑥役員候補 ⑦事務局員委嘱 ⑧連絡員委嘱

(4) 分科会 (8/8 9:30~16:30 ※12:00~13:00は休憩)

分科会名	分科会のねらい（◆共同研究者）	
①健康・身体づくり 1	参加者のニーズに応え、2つの分科会を設定しました。呼吸・摂食・排泄・運動動作などの指導について講義・実践を交えながら交流しましょう。 (※午前はレポート報告、午後は実技講座を行う予定です。)	障害が重く、日常的にさまざまな健康管理が必要な子どもに対する関わりについて。 ◆多田 智美 (三重県立くわな特別支援学校 理学療法士)
②健康・身体づくり 2		姿勢づくりや子どもの活動を引き出す関わりについて。 ◆桑原 輝男 (東京都立府中特別支援学校) ◆竹脇 真悟 (埼玉県立宮代特別支援学校)
③コミュニケーション	重度・重複障害児のコミュニケーションを育てるための援助や配慮について、レポートを元に訪問での実践内容を交流しましょう。小中学部の訪問生だけでなく、過年度卒業生など青年期に入っている生徒についても、「コミュニケーション」という視点から幅広く討議をしましょう。 ◆川住 隆一 (東北大学大学院教授)	
④あそび・文化	障害が重く、限られた環境条件の中での「あそび」は、どの教師も親も悩むところだと思います。貴重な経験や工夫を交流しあって共有の財産としましょう。訪問での実践内容、また、高等部生徒や過年度卒業生など青年期に入っている生徒についても、「あそび」から発展した「文化」という視点から幅広く討議しましょう。 <u>☆参加される方は、教材を持ってきてください。分科会内で教材紹介を行います。</u> ◆木下 博美 (京都府立舞鶴支援学校)	
⑤施設内の教育	分教室や施設内学級、施設訪問等の教育内容について、具体的事例を通じて実践を深めていきましょう。また、就学免除者等、不就学者の教育保障について関係者との連携を大切にしながら進み始めている実践を交流しましょう。 ◆河合 隆平 (金沢大学准教授)	
⑥病気療養児の教育	“生きる力を育む”いのちの輝く教育を求めて、病気療養児の教育内容・方法や、院内学級・分教室・病院内訪問教育の実践を深めていきましょう。 ◆濱口 典子 (国立病院機構東名古屋病院小児科医長) ◆猪狩 恵美子 (全国訪問教育研究会会長・福岡教育大学教授)	
⑦地域での生活支援と教育 ー医療・教育・生活	「地域の中で生きる」視点での生活支援、卒業後の進路を見通した指導、アフターケア、社会参加など、子どもたちの教育と生活を豊かにする地域支援のネットワークづくりが大切になっています。医療的ケアを必要とする障害の重い子どもたちから内部疾患を持つ子どもたちの地域での生活など、様々な障害のある子どもたちの就学前から在学中、卒業後までの教育と生活を考えていきましょう。 ◆田中 良三 (愛知県立大学教育福祉学部教授・生涯発達研究所長) ◆下川 和洋 (全訪研全国事務局・NPO 法人地域ケアさぼーと研究所理事)	

●分科会レポートの申込みについて

分科会でのレポート発表を希望される方は、次の①～⑤について、**6月10日までにレポート担当宛に連絡をお願いします。**レポート担当者より、印刷部数やレポート送付先を連絡します。

- ①分科会名・氏名・学校名または所属先名 ②自宅住所と電話番号(FAXの有無)・メールアドレス
- ③レポートタイトル ④使用する視聴覚機器(ビデオ、パソコン等)
- ⑤レポートの配布などに関して、個人情報保護の配慮が必要かどうか

<レポート担当> 全国訪問教育研究会 全国事務局 栗山弘子
FAX 03-5330-8857 h-kuri@peach.ocn.ne.jp

●レポート発表に関して

- ・大会実行委員会で用意できる視聴覚機器は、原則として、プロジェクターとスクリーンです。パソコン、ビデオ、その他の機器を使用する場合は、各自でご用意ください。
- ・発表されたレポートは、全訪研研究集録「訪問教育研究第25集」に掲載させていただく場合があります。原稿依頼を受けた際は、よろしくをお願いします。

●大会参加者へのレポートの配布について

- ・各レポート配布はレポーターの判断を尊重します。個人情報保護の観点から、原則としては発表される分科会の中のみ配布となります。
レポーターが許可し、残部があった場合、3日目に配布が可能となります。
- ・各分科会の内容は、12月末発行の「訪問教育研究第25集」(1000円+送料)に掲載されます。大会の会場でも予約を承りますので、他の分科会のレポートを知りたい方はご利用ください。

(5) 全国訪問教育親の会懇談会 (8/8 13:00~16:30)

大会2日目の午後に、全国訪問教育親の会懇談会を開きます。思っていること、悩んでいること、いろいろ話しに来てください。訪問(卒業生も含めて)の保護者のみなさんの参加をお待ちしています。皆さんのお話に共感し、アドバイスをしてくださる方がいらっしやると思います。なお、場所は全訪研大会と同じ会場です。

(6) 訪問なんでも交流会 (8/8 18:00~20:00)

2日目の夜には、名古屋国際会議場の展望レストランで交流会を行います。歓迎企画として、聴覚障がい者の手話ロックバンド「ブライト・アイズ」の演奏で、参加者の皆さんをお迎えます。夕食をとりながら各地の訪問教育の様子を語り合いましょう。(参加希望の方は、参加申込書の「交流会」の欄に○をつけて申し込みをしてください。交流会の参加費は、夕食を含めて、5,500円です。)

(7) ワークショップ (8/9 9:30~11:00)

	ワークショップ名	講師	内容
A	授業づくり	木下博美(京都府立舞鶴支援学校)	表出の少ない重度の訪問の子どもたち。どうすれば、その心に触れることができるのか?どんな授業ができるのか?悩みながらの実践をお伝えします。
B	医療的ケアの新しい動向	下川和洋(全訪研全国事務局・NPO法人地域ケアさぼーと研究所理事)	2011年に「社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正」が行われ、介護福祉士の他に介護職員等(特別支援学校の教員等も含む)の非医療職が行う痰の吸引等が法律に位置づけられました。2012年4月1日の法施行により、自治体間での取り組みに温度差が出ています。ここでは、国の制度設計や実施上の課題について学習します。
C	大型紙芝居ペーパーアート	南 寿樹(愛知県立大府養護学校)	障がいの重い子どもたちでもできる表現活動としてのペーパーアート作りと、その発表を楽しみます。また、教材として大型紙芝居ペーパーアートの作品作りのコツをお伝えします。(定員30名)
D	ふれあい体操と子どもたち	武井弘幸(愛知県立春日台養護学校)	障がいの重い子どもたちにアプローチする方法のひとつとして、愛知の肢体不自由の特別支援学校で生まれたふれあい体操を紹介します。心と体の関わりかたの糸口になればと思います。
E	つながりあそび・うた	大塚淑子(小牧・おひさまクラブ代表) 鷺津美和子(愛知県立小牧養護学校)	思うように体が動かず表出も少ない子どもたち。触れ合い遊びを通して心や体がつながっていくことの意味を考えながら、つながりあそび・うたの実際を体験します。

(8) 全体会（閉会行事） (8/9 11:15~11:45)

大会最終日の全体会です。以下の内容を予定しています。

- ・大会宣言 ・実行委員長あいさつ ・わくわくクラブ（保育）の活動、参加者の紹介
- ・次回開催地への引き継ぎ ・閉会あいさつ ・歌「小さいのち」

■わくわくクラブ（保育）と緊急時の体制について■

実行委員会では、子どもさんや障害があるお子さん連れでも、保護者の方に参加していただきやすいように、わくわくクラブ（保育）を設けます。

●時間帯 次の4つの時間帯でわくわくクラブを実施します。

- (a) 8月7日（火） 13:00~17:30
- (b) 8月8日（水） 9:00~12:00
- (c) 8月8日（水） 13:00~17:00
- (d) 8月9日（木） 9:00~12:00

●緊急時の体制と医療機関（緊急時には、会場近くの病院での対応をお願いしています。）

中部ろうさい病院 名古屋市港区港明1丁目10番6号 TEL 052-652-5511

●わくわくクラブ（保育）申込み

- ・大会参加申込書の「わくわくクラブ（保育）の希望」の欄にご記入ください。
- ・クラブ参加費用、おやつ代や見学代等の費用をいただきます。
- ・申込書の受け付け後、お子さんに安全かつ快適に過ごしていただくために、お子さんの医療的ケアや生活ケアについて、お伺いします。
- ・大会当日に、保険証または、そのコピーをご持参ください。

<わくわくクラブ（保育）についての連絡・問い合わせ先>

日置 隆子

TEL&FAX 0561-52-0595

■参加費・宿泊費■

(1) 大会参加費

- ・全訪研会員 (3日間) 6,000円 (1日参加: 2,500円 2日参加: 4,500円)
- ・一般 (3日間) 7,500円 (1日参加: 3,000円 2日参加: 5,500円)
- ・保護者・学生 (3日間) 2,000円 (1日参加: 1,000円 2日参加: 1,500円)

※参加費に加えて、お一人につき、500円の手数料をいただきます。（事前申込み、当日申込みのどちらも500円の手数料がかかります。）

※会員と一般(会員でない方)は費用が異なりますので、ご注意ください。参加申込みと同時に会員申込みをすることも可能です。参加申込書の「入会を申し込む」の欄に○をつけてください。

入会には年会費4,000円が別途必要です。会費は大会当日に全訪研受付でお支払いください。

(2) 食事関係

昼食代(2日目 8/8) 1,000円(お茶付き)

訪問なんでも交流会(2日目 8/8) 5,500円(夕食を含む)

(3) 宿泊費

次の3つのホテルを用意しました。

①名鉄イン金山(1泊・朝食サービス) シングル 6,800円

※朝食サービスはホテルが宿泊者に無料提供するもので、コーヒー、パン、ご飯、お味噌汁程度となります。

②金山ワシントンホテルプラザ

(1泊・朝食付き) シングル 7,500円 ツイン 7,200円

③サイプレスガーデンホテル

(1泊・朝食付き) シングル 8,300円 ツイン 8,000円

※バリアフリーのお部屋は、サイプレスガーデンホテルのみです。



■申込み方法■

- ①大会参加者1人につき1枚「参加申込書」にご記入の上、FAXまたは郵送で、下記の送付先へお送りください。また、全訪研ホームページからもメールで申込みができます。

☆全訪研ホームページ http://www.geocities.jp/chou_masaharu/

- ※参加申込者が複数いる場合は、恐れ入りますが「参加申込書」用紙をコピーしてお使いください。
 ※宿泊がご不要の場合も、参加申込みをしてください。

【参加申込書の送付先・問い合わせ先】

〒460-0008

愛知県名古屋市中区栄2丁目9番26号（ポーラ名古屋ビル内）

名鉄観光サービス（株）名古屋伏見支店

「全国訪問教育研究会第25回全国大会」

TEL：052-211-2315 FAX：052-211-2420

メール：hirotaka.mizuno@mwt.co.jp

担当者：水野 宏隆

大会参加申込み締切 6月30日（木）

- ②申込受付後、予約確認書・請求書をお送りします。
 ③お送りした予約確認書・請求書の内容をご確認の上、参加費・宿泊費の合計金額を指定口座までお振込みください。

■申込み後の取り消しについて■

ご宿泊の取り消しにつきましては、1件1名につき下記の取り消し料金を申し受けます。

ご利用の	14日前～4日前	3日前～2日前	前日	当日12時まで	無連絡不泊
当該料金の	20%	30%	50%	80%	100%

日数は宿泊初日から起算させていただきます。

昼食は、3日前50%、2日前80%、前日・当日100%となります。

- ※「大会参加費」については返金できません。代わりに、大会記録が掲載された「訪問教育研究 第25集」を12月末に送付致しますので、ご了承下さい。

■資料の請求について■

大会に参加できないが大会記録がほしいという場合は、12月末に発行される「訪問教育研究第25集」を送付致します。大会の記念講演や分科会まとめ、その他、訪問教育に関する資料が掲載されています。

下記の郵便口座に資料代(送料込み)として、1,080円の入金をお願いします。振替用紙の「通信欄」に「資料請求代」と明記して下さい。資料請求の受付は、6月30日までです。

【資料請求の振込先】 郵便振替口座番号「00130-2-95934 全国訪問教育研究会」

(※全訪研会員には、12月に機関紙「こんにちは」と一緒に「訪問教育研究 第25集」を送付しますので、資料請求のみの申込みはなさないよう、ご注意ください。)

■会場へのアクセス■



※お車で来場予定の方へ

名古屋国際会議場又は、その周辺には十分な規模の駐車場がありません。公共交通機関で来場される事をおすすめします。

■全訪研・全国事務局■

全訪研会長：猪狩 恵美子(福岡教育大学) TEL 0940-35-1520(研究室) emikari@hotmail.com

全国事務局長：長 正晴 TEL&FAX 049-231-6941 chou_masaharu@yahoo.co.jp

■愛知大会・実行委員会■

実行委員長：田中良三(愛知県立大学教育福祉学部教授・生涯発達研究所長) 要項一面に詳細。

副実行委員長：山本純士 NHK連続テレビドラマ『勉強したい』の原作者。著書に『15メートルの通学路』(角川文庫)、『授業の出前、いらんかね』(文春新書)、『プレイボール』(角川書店)ほか。 教員。

副実行委員長：南寿樹 NPO法人「愛実の会」副理事長。「愛知県しょうがい者の生活を豊かにする会」会長。日本人形劇とセラピー協会常任委員。現在も障害者通所施設の創設に尽力中。教員。

大会事務局長：水野利之 問い合わせ先：TEL&FAX 052-625-4784 zenhouken25aichi@yahoo.co.jp

全訪研ホームページ http://www.geocities.jp/chou_masaharu/

(こちらからも参加申込みできます。また、全訪研に関するいろいろな情報が見られますので、ぜひ、ご覧ください。)